園のおたより

第　４　号

令和６年７月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

泳げるようになりたい

園長　関　由起子

6月の末、幼稚園にプールがやってきました。1組さんはたくさんの大きなビニールプールにおおよろこび。時に砂や葉っぱも加わりおもしろい水遊びが繰り広げられます。2組さんは大きなプールに大興奮。宝物ひろい、輪っかくぐりなどで水に潜り、お魚のように素敵な顔を水面に出します。3 組さんには幼稚園のプールは狭く感じます。けれどもみんなで行う楽しい水遊びに興奮し、手から飛び立った水しぶきがキラキラ光りながら芝生に落ちていきます。

楽しそうにプールで遊ぶこどもたちを見ながら思い出すのは、やっぱり我が娘のこと。水泳教室に通わせたのですが、あまり楽しそうではなく、結局泳げるようにならなかった思い出です。私も人並みに、娘に色々な習い事をさせました。特に大変だったのはピアノ教室です。練習をまったくしないため、毎週のレッスン前になると親子喧嘩がはじまります。「練習しなさい！　しないならピアノ辞めるよ」、「いやだ、練習する、辞めない」の繰り返しでした。３年ほどたったある日、天の助けが現れました。それは私の心の師匠、教育評論家 尾木直樹先生（通称尾木ママ）の、習い事に関するあるテレビ番組での言葉でした。『こどもはいろいろなことに挑戦したいもの。挑戦し始めてあまり気が乗らないことがわかっても、こども自ら“辞める”とはなかなか言わない。それは親が辞めることで悲しむと思っているから。こどもの好き、得意をみつけて、それ以外の習い事は辞めさせるのも親の大事な仕事』(正確ではありませんが、私はこのように受け止めました)。　そして、ピアノ教室を辞めると私が決断した途端、私と娘に笑顔がもどってきました。このことをきっかけに、いくつも習い事をはじめ、そして潔く親が辞めさせてきました（水泳、通信教育、塾、テニス、ミニバスケットなどなど)。

そして確か小学６年生の夏、娘が突然「水泳を教えてほしい、泳げるようになりたい」と私に言ってきました。仕事帰りの市民プール終了１時間前の空いている時間を活用しようと、１０枚チケットを２人分購入しました。そして私による水泳教室の初日、クロールの息継ぎの方法を教えると、あっという間に泳げるようになり、25m を何度も往復するではないですか。決して教え方が良かったわけではありません。娘の“泳げるようになりたい”という思いがそうさせたのだと思います。市民プールの残りの 9 枚チケットは、水泳教室ではなく、私のダイエット（少し泳いでサウナに入る）に活用されました。

先日、附属幼稚園 1 組の A さんにプールに入ることを誘うと、「今日はやらない、〇〇して遊ぶ」と言いました。私は全員がプールに入らないのは困ったことだと思ったのですが、先生方は、A さんが自分の思いを言えるようになったのはとても良いことと評価していました。困ってしまったのは私だったのです。A さんはプールに入っているこどもたちと一緒に、楽しそうに、そして大胆に水遊びをしていました。『こどもの「自らのびる力」を育てる』には、こども自身が「楽しむ」ことが重要なんだと、改めて A さんに教えてもらいました。A さんありがとう。

これから夏休み、こどもたちの好きや得意が見つかるよう、たくさんの経験が出来ることを祈っております。

「歌う」こと

副園長　小谷　宜路

幼稚園までの通勤の行き帰りに、それぞれの地区での夏らしい集い（お祭りなど）のチラシが掲示されているのを目にすることが多くなりました。７～８月のいずれかの週末に開かれることが多いようです。すでにお祭りを体験した地区のこどもたちもいるようで、楽しかったことを教えてくれる人もいました。先日、私の自宅の近くでも、地域の納涼の会の看板が立ちました。チラシや看板を見ると共に、祭りの笛太鼓やお囃子、盆踊りの音楽などが聞こえてくる感じもしています。

この１学期、幼稚園の中でも、たくさんの音楽が聞こえていました。それぞれのクラスの部屋や遊戯室に「ステージ」が登場することがよくあり、音楽に合せて、歌を口ずさんだり、踊ったりする「コンサート」や「ショー」に、友達や先生を招く姿がありました。私も招待してもらったときには、ありがたくお邪魔して楽しいひとときを過ごしました。１組は、お手製の「マイク」を手に持って歌うことがよくありました。歌い終わると、お客さんに大きく手を振ったり握手をしたり、嬉しそうな様子もありました。５月のこども会で３組が披露してくれた『たけのこ体操』や、７月のこども会で３組が歌いながら踊って見せてくれた『ぼくのミックスジュース』は、１組や２組も気に入っている曲です。時々、３組がリズムのよい歌と動きで１組や２組に教えてくれる関わりもありました。

幼稚園では、クラスみんなでいろいろな歌を歌う機会もあります。毎年、入園して最初に歌う『ようちえんのうた』は、どのクラスでもよく歌われていて、３番までの歌詞を覚えるのは少し大変なのですが、「うらうら♪」と明るく口ずさんでいます。６月終わりごろからは『たなばたさま』の歌が聞かれました。『たなばたさま』のほかにも、『こいのぼり』『凧のうた』『うれしいひなまつり』など、季節や行事と結びついた歌が一年のそれぞれの時期にありますが、どれもこどもたちには口ずさみやすく、また実際の生活と一緒に楽しみやすい歌のように思います。今年は雨の時期に、３組や２組から『あめふりくのこ』の歌が何度か聞こえてきました。柔らかな言葉の歌詞と柔らかな旋律・曲調があり、ほっと「歌う」ことの心地よさを感じられる歌で、『ぼくのミックスジュース』のような軽やかさとはまた違った感覚の世界に浸れるよさを感じました。

幼稚園でこどもたちと一緒に生活していると「歌う」ことが、いつも身近にあります。幼稚園で働くことの楽しさには、ほんとうにいろいろなものがありますが、「歌う」ことが日常あること、音楽と共に生活があることは、その楽しさの大きな一つになっています。夏休みには、こどもたちの歌声も幼稚園内ではお休みになりますが、また、２学期に素敵な歌と一緒に園生活を楽しんでいきたいと思います。

暑さが今年も厳しいようです。どうぞよい毎日をお過ごしください。

クラスだより

１くみ

「夏を感じて」

　これまでの遊びの中でも、砂場で掘った大きな穴に水を溜めて温泉を作ったり、山に作った道から繰り返し水を流したり、たくさん水に触れながら遊んできました。暑さを強く感じるようになり、園庭にプールが設置されると、いよいよ楽しみにしていた水遊びが始まりました。
初めてのプールでの水遊びでは、道具を使わずに全身で水に触れてみることにしました。プールの外から手で水を触ってみると、「冷たい」「気持ちいい」とプールに溜まるたくさんの水だからこその心地よさを感じていました。プールの中に入ると、肩まで水に浸かってワニのように動く人、手で思いっきり水を浴びる人など、思い思いに全身で水に触れることを楽しんでいました。

　１組では牛乳パックや魚のおもちゃだけでなく、水遊び場にある噴水も使いました。水を出す前は「どこから出てくるんだろう」とどきどきした様子で見守っていた人も、水が出てくると、落ちてくる水の下に入って滝に打たれたように水を浴びてみる人、どこに水が落ちてくるのかよく見て、手に持っている牛乳パックでキャッチする人、水の吹き出し口に手や牛乳パックをかざしてみる人など、「こんなふうにしたら面白そう」ということをやってみていました。そんな中、出てくる水を手で押さえる、離すを繰り返している人がいました。その視線の先を見てみると、自分が水をせき止めることで、空中にある水がなくなったり、出てきたりする様子を見て喜んでいました。また、同じ「噴水の水を押さえる」でも、強く押さえることで勢いよく水が四方八方に飛んでいくことを面白がる人もおり、自分がやってみたことで変化する水の様子を楽しんでいました。水には決まった形がないからこそ、こどもたちは自分なりの遊び方を楽しむことができるのではないかと思いました。

　暑さを感じられるようになったこの時期だからこそ味わえる水の感触や心地よさがあります。水や風、木の実などその季節にしか味わうことができないことを楽しみながら２学期も過ごしていきたいと思います。

　９月にまた、元気なみんなに幼稚園で会えるのを楽しみにしています。

２くみ

「人と人との間」

２組になって、４カ月が経ちました。いつの間にか花壇に芽を出したヒマワリがぐんぐんと高くなり、「こーんなに高いね」「せんせいより大きいね」と背比べをして、咲く日を心待ちにしていました。先日やっと咲きました。「やっぱりヒマワリだったんだ」と嬉しそうに見上げていました。こどもたちの身体も毎日ぐんぐんと大きくなり、椅子に座った時の足が、つま先と少しだった人も、ぴったりと床に着くようになりました。また、友達とたくさん遊ぶことを通して「もっとこんなふうにしたい」というイメージがさらに膨らんだ人もいました。２組になって初めて幼稚園の大きなプールで水遊びを繰り返すうちに、ダイナミックな動きで水と触れ合う人もいました。ハッと気づくと、いつの間に！と変化に驚くこともありますが、毎瞬こどもたちはいろいろに変化をし、豊かな毎日を過ごしていますね。

少し前のある日ことです。２組にあるプラフォーミング積み木を使っているAさんとBさん、片付けようとするCさんがありました。４段ほど積み重なる積み木の上に座って、向こう側にある自分達の作ったバスを眺めながら、次はどう作ろうかと考えているAさんとBさん。そこへ１人で長い積み木を運んでいるCさんがやってきて、積み木を片付けたいけれど、友達が座っているし、どうしようと、じぃっとしていました。すると、座っているAさんが、その姿に気付いて、別なところに動いてくれました。それを感じたBさんも動いてくれました。無事に積み木が片付いたわけです。ホッとしたような笑みを浮かべて、Cさんは、２人の目をちらりと見つめていました。その間、３人は言葉を使いませんでした。他にも友達がいた場の中で、AさんとBさんに、困っているという思いが届いたこと、積み木を持っている姿を目にして、除けてほしいという思いを受け取ったこと、Aさんが動いてBさんも何かを感じたこと・・・人と人との間で生まれるあたたかさのような、言葉にできないもっと深いところで分かち合った姿に、こちらまであたたかい気持ちになりました。

３くみ

「自分たちで豊かにしていく」

厳しい暑さや、しとしと降る雨から夏らしさを感じる季節になってきました。3 組で育てている夏野菜もたくさん実るようになってきて、お弁当の時間にみんなで食べたり、お家にもって帰ったりして、自然の恵みを享受しながら過ごしています。先日春に種芋を植えたジャガイモを収穫することができました。「どうやって食べようか？」と相談すると、作ってみたい料理がたくさんこどもたちから出てきました。そこで、作り方を調べて作ってみることにしました。次の登園日、ポテトチップスの作り方を調べて来てくれた人がいました。材料はどうしようか、危なくないかな？など話し合いの時間をもちながら準備を進め、塩は各家庭から持ち寄って作ることができました。自分たちで考えを出し合ったり、自分たちで準備したりする時間がより味をおいしく、そして「こんなこともできるんだ」という自信になったのではないかと思います。

それぞれの遊びの中でも人が集まることでアイデアが豊かになり、遊びがどんどん面白くなっていく姿があります。例えば、ヒノキの下で日陰の心地よさを感じながら川工事にじっくり取り組む人たちがいます。6 月の初めごろから、築山の周辺を少しずつ掘り始めて「あらかわ」や「たまがわ」と自分たちで名づけて遊びを進めてきました。最初はどうしたら水が最後まで流れるか、勾配や川幅を調節していく姿がありました。川が最後まで流れつくと、次はダムを作って水をためたり、水を放流したりして水の流れの早さを面白がっていくようになりました。様々な遊びの中で、仲間がいることで「次はどうしようか、こんなやり方があるんじゃない？」など相談したり、力を合わせたりしながら遊びを面白くしていく姿が 1 学期の後半から多く見られるようになってきました。

いろいろな関心ごとを、最初は一人からでも、みんなで一緒に考えたり、アイデアを出し合ったりして、より生活や遊びが豊かになっていくことが実感として積み重なっていくように、２学期も支えていきたいと思います。